

## 越後の植物観察記 (その5)

木村 彰

文中 [ ] 内は1:50,000図金井式メッシュ (測地系はJGD2000) と環境庁メッシュ (Tokyo測地系) であるが、稀産種については保護上の観点から後者を記していない。海拔は国土地理院『数値地図50mメッシュ (標高) CD-ROM版』によっている。

## I 帰化種, 国内帰化・逸出種

○ハマアザミ *Cirsium maritimum* Makino

(キク科)

新潟市中央区一番堀通町 新潟県民会館 2 m [新潟391376-12, 5639-60-93] (写真1:2007年4月27日)

昨年, 本誌に新潟市役所に近い植込みに2株が咲いていたと報告したが, 隣接する県民会館の駐車場にも3株の生育を確認した。何らかの理由により, この界隈に侵入しているようである。

○メグサハッカ *Mentha pulegium* L.

(シソ科)

佐渡市湊 1 m [相川382381-42, 5738-03-85] (写真2:2007年7月14日)

両津港近くの砂利敷きの駐車場に逸出していた。図鑑には茎の上部に短毛があるとあり, いくぶん毛深すぎる点が気になるが, 園芸上ではこうしたものもメグサハッカの名の下に栽培されている由である。

○キイロハナカタバミ (オオキバナカタバミ) *Oxalis pes-caprae* L.

(カタバミ科)

新潟市中央区上所 1 m [新潟391376-12, 5639-60-83] (写真3:2007年5月3日)

花卉を植栽された一画に紛れている。植栽された植物に付随して来たか, あるいは当初は意図的に植栽されたものと思われるが, そのまま残存している。

## ※既報告種その後の状況について

2004年報告の新発田市五十公野公園のモミジバヒメオドリコソウ *Lamium hybridum* Vill. は, 翌年までは確認できたが, 2007年には確認できなかった。イヌコハコベ *Stellaria pallida* (Dumort.) Crep. は, 現在では旧新潟市域の路傍, 公園, 港湾等に普通に見られるようになり, 2006年・2007年には燕市東太田の駐車場植え込み [弥彦384375-31, 5638-4703] で経年発生を確認した。郊外に進出し始めているようである。上越市稲田のトゲミノキツネノボタン *Ranunculus muricatus* L. は2007年4月時点でも同地点に多数生育している。

## II 在来種

○ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

(ヒシ科, 県: 絶滅危惧Ⅱ)

新潟市北区内沼 内沼濁 0 m [新潟391376-42] (写真4:2007年10月28日採集)

『レッドデータブックにいがた』には「県内の生育地は福島潟を最後に他では確認していない。最近福島潟でも確認されず, 絶滅した可能性がある」とあるものの, 実際には近年の県内での生育報告があり, 情報不足の感がある。ねっとわーく福島潟 (2005) に内沼濁から報告があるが, 筆者も潟岸に漂着する果実を確認した。岸に流れ着く果実を見る限り, 潟に生育するのはほとんどがヒシであり, ヒメビシはごく少ないか, 局所的に偏在しているようである。

○トモエソウ *Hypericum ascyron* L. subsp. *ascyron* var. *ascyron*

(オトギリソウ科, 県: 絶滅危惧Ⅱ)

新潟市江南区横越 4 m [新潟391376-31] (写真5:2007年7月8日)

県内のトモエソウの平野部における分布としては, 新潟市津島屋阿賀野川中洲 (笹原, 1998) や栄町 (現・三条市) 尾崎信濃川 (刈谷田川合流点) (石沢, 1994), 松浜橋 (リバーフロント整備センター編, 2000), 早出川合流点上流・下流 (リバーフロント整備センター編, 2000) があるが, 上記地点でも確認した。大型株は少なく, セイタカアワダチソウやノイバラといった草丈の高い植物に囲まれており, 継続性が危ぶまれる。

○ヒメオヒルムシロ *Potamogeton ×yamagataensis* Kadono et Wiegleb (ヒルムシロ科)

新潟市北区長場 駒林川 2 m [新潟391376-42, 5639-6157] (写真6:2007年9月30日)

新潟市北区上堀田 駒林川 3 m [新潟391376-41, 5639-6146]

新潟市北区新井郷 水路 2 m [新潟391376-32, 5639-6193] (写真7:2006年10月9日)

新潟県平野部の雑種由来の大型ヒルムシロとしては、阿賀野川以西にヒメオヒルムシロ、阿賀野川以東にアイノコヒルムシロ *Potamogeton ×malainoides* Mikiが知られ、両者は住み分けていると思われていたが、阿賀野川以東の上記地点のものもヒメオヒルムシロと思われる。新井郷や上堀田ではアイノコヒルムシロと混生しているが、アイノコヒルムシロが良好に開花し、発芽能力のある種子を作るのに対し、ヒメオヒルムシロは開花自体が稀であり、更なる交配が起こっているかどうか不明。また、上堀田ではカモガワモ (オオミズヒキモ) *Potamogeton ×kamogawaensis* Mikiとも混生する。カモガワモも雑種由来とされ、県下の平野部に広く分布するが、良好に浮葉を形成し、開花するものと、浮葉形成も開花も見られないものがあり、異なる分類群を内包している可能性が指摘されている。ヒメオヒルムシロにも複数の分類群が含まれている可能性は否定できないが、可視的に区別できるものではないため、ここではヒメオヒルムシロとして報告しておく。

## III 雑録

○タヌキモ *Utricularia vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura の分布の追加

昨年の本誌にタヌキモ類の分布について報告(石高・久原, 2007)があった。イヌタヌキモは各所に生育するので割愛するとして、筆者が殖芽を調査した限りでは以下のものもタヌキモであったので追加する。

- ・十日町市重地…イヌタヌキモと混生しているようで、花期に花茎を調査するとほとんどが中実で中空のものはごく少ない。タヌキモは開花頻度が低いのかもかもしれない(写真8:2003年11月9日)。
- ・柏崎市軽井川…ハリマノフサモ(仮称:フサモとオグラノフサモの推定雑種)と混生している(写真9:2004年11月9日, 写真10:2004年8月29日)。

○新潟市南区吉江のトチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer の消失

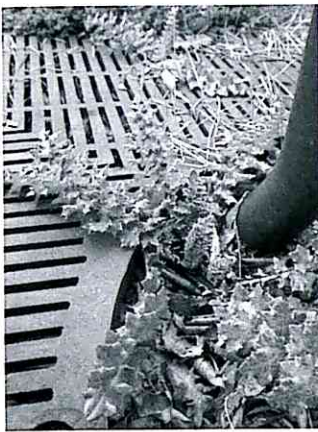
本誌2003年版に新潟市南区吉江のトチカガミを報告したが、2007年には確認できなかった。ほぼ止水状になった水路に生育していたものであるが、水路が改修され通水されたようで、トチカガミは流出したか、水質の変化で消滅したものと推察される。

## 【参考文献】

- 米倉浩司・梶田忠 (2003~) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), [http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist\\_main.html](http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html)
- 帰化植物メーリング・リスト (2002~), 連絡先 [naturplant-admin@ml.affrc.go.jp](mailto:naturplant-admin@ml.affrc.go.jp)
- 清水健美編 (2003) 日本の帰化植物, 平凡社
- 新潟県環境生活部環境企画課 (2001) レッドデータブックにいがた-新潟県の保護上重要な野生生物-
- ねっとわーく福島潟 (2005) 新潟県内の水生貴重植物の分布と保存・再生 (第3回 (財)こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金による活動), 活動報告集第7号, ねっとわーく福島潟
- 池上義信・石沢進 (1994) 新潟県植物分布資料 (14), 新潟県植物分布図集第15集, 植物同好じねんじょ会
- 池上義信・石沢進 (1999) 新潟県植物分布資料 (18), 新潟県植物分布図集第19集, 植物同好じねんじょ会
- リバーフロント整備センター編 (2000) 平成10年度 河川水辺の国勢調査年鑑 植物調査編, 山海堂
- 石高和弘・久原泰雅 (2007) 新潟県に自生する水生タヌキモ類の分布 (その1), 新津植物資料年報2006, 積雪地域植物研究所 (新津植物資料室)

## 【訂正】

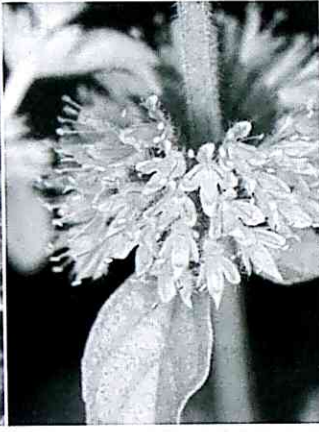
【新津植物資料室年報2003】「ミズワラビとトチカガミの新潟県における分布」でP22ミズワラビの項10行目に「見附市学校町」とあるのは「見附市新潟町」の、同じく【新津植物資料室年報2004】「越後の植物観察記(その2)」でP18「5月に咲くススキ」1行目に「ワセオバナ」とあるのは「トキワススキ」の誤りですので、訂正させていただきます。



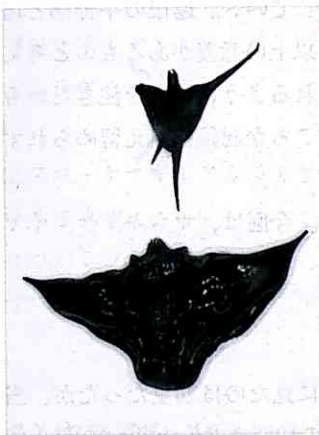
[写真1] ハマアザミ



[写真2] メグサハッカ



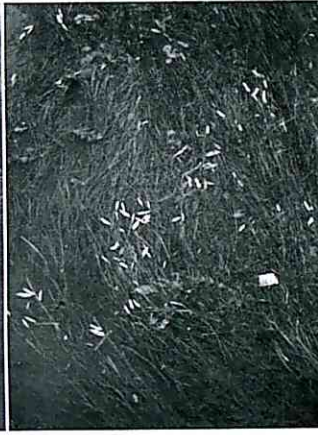
[写真3] キイロハナカタバミ



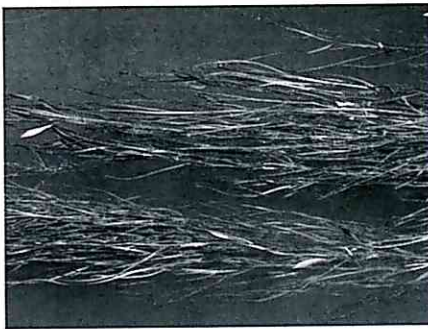
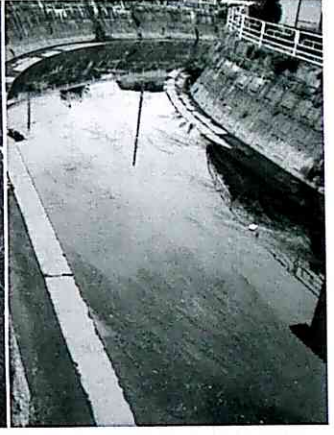
[写真4] ヒメビシ (上)



[写真5] トモエソウ



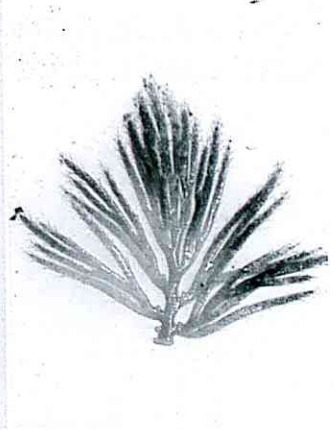
[写真6] ヒメオヒルムシロ (長場) 右は生育状況



[写真7] ヒメオヒルムシロ (新井郷)



[写真8] タヌキモ (重地) 殖芽葉



[写真9] 同 (柏崎) 殖芽葉



[写真10] 柏崎市軽井川の池